

下野市立吉田東小学校

1 学校課題

(1) 研究主題 「主体的に表現し、伝え合う児童・生徒の育成」
～インタラクティブコミュニケーションを目指して～

(2) 主題設定の理由

本校では、昨年度まで児童のコミュニケーション能力の向上を目指した国語や算数の授業を目指し、研究を重ねてきた。当初、自分の考えを表現することに苦手意識を持っている児童が多かったが、課題や教材、学習形態の工夫により、少しずつ自分の考えを伝える力や課題を追究することへの意欲が高まってきた。しかし、相手を意識し、より自分の考えが伝わる話し方の工夫（声の大きさや抑揚、相手を引きつける話し方の工夫、構成力）などには、依然として課題が残る。また、語彙もさらに増やし、様々な言い方で相手に伝える力を付けていく必要がある。

そこで今年度は、児童がさらに主体的に表現し、一方通行ではなく相互の意思疎通を図る能力（Interactive communication）を主に外国語活動を通して育てることを研究主題に設定した。

研究を通して、より相手を意識し相手に伝わるコミュニケーション方法を習得することで、自分の思いや考えをさらに発信する自己表現力が育成できると考えた。



5年 外国語「She can run fast.
He can jump high.」

2 研究計画

(1) 研究の仮説

A めあて・ゴールの明確化

授業において、明確なめあてやゴールを示し、振り返りを充実させることで、目的意識を持って発言し、深まりのある活動になるのではないかと。

B 児童が夢中になる課題と話し合い活動の場面の設定

外国語活動等において、課題の与え方を工夫し、話し合いの場、発表の場を設定する。これにより、児童全員が積極的に自分の考えを述べ、多様な考えのもと深まりのある話し合い活動が展開するのではないだろうか。

C 個と個をつなぐ教師のコーディネート力

児童同士が、スムーズに意見のキャッチボールができるように、教師のコーディネートスキルを高める。これにより、児童同士が主体的に意見を交わし、深まりのある話し合い活動ができるようになるのではないかと。

(2) 各教科での取組

- 単元全体を見通した明確なめあて、ゴールの設定と提示、振り返りの充実
- 問題解決を図ろうとする意欲を高める課題の設定
- 児童同士の発言をつなぐ教師の支援
- 学習形態の工夫（グループ、ペア、全体、異学年など）による学び合い活動の活性化
- 相手を意識した話し方、聴き方、リアクションのモデリング（系統的な積み重ねを図る。）
- 各教科における研究授業、授業研究会での成果と課題の明確化
- 児童の学びを深める手立てや方法の研究



6年外国語「I like my town」

(3) 日常での取組

- 朝「イングリッシュタイム」を実施（語彙力をつける。）
- リトミックを取り入れた朝の歌
- 基本話型を生かし、相手に分かりやすく説明できるような指導支援
- 朝の会での、1分間スピーチの充実
- 良好な人間関係の構築
- あいさつ運動の実施
- 外国語集会の実施



イングリッシュ集会

3 研究内容

(1) 授業研究の概略

日程	学年	教科	単元名	外部アドバイザー
5/ 31 (金)	5年	外国語	「She can run fast. He can jump high.」 【要請訪問】	下野市教育委員会指導主事 稲葉亜希恵先生
6/ 24 (月)	6年	外国語	「I like my town」 【下野市小中学校英語研修】	東京家政大学教授 太田 洋 先生 下野市教育委員会指導主事 稲葉亜希恵先生
9/10 (火)	4年	外国語	「Alphabet」 【要請訪問】	下野市教育委員会指導主事 稲葉亜希恵先生
11/8 (金)	1年	外国語	「Sports」 【要請訪問】	下野市教育委員会指導主事 稲葉亜希恵先生

(2) 授業以外での主な実践

	活動	内容
木曜日朝の学習	イングリッシュタイム	ゲーム、歌、読み聞かせなど
6 / 26 (水)	イングリッシュ集会①	Shopping game
10 / 31 (木)	イングリッシュ集会②	Happy Halloween

4 本年度の成果と課題

(成果)

- ・めあての立て方が変わってきた。単元全体を見通したためめあてとゴールを教師が意識するようになり、それをもとに単元の流れや教材などを考えることができた。また、めあての語尾が「～しよう」から、「～できる」に統一され、教師も児童も、何ができればめあてを達成できるのか、具体的に捉えられるようになった。
- ・話し合いの場を意図的に設定してきたことにより、自分の考えを進んで述べることに対する抵抗が少なくなり、積極的に伝えようとする児童が増えた。特に外国語での取組みを通して、英語での受け答えがスムーズにできる児童が増えてきた。
- ・児童の意見をうまくつなぎ、コーディネートしていこうとする教師の意識が高まった。児童同士で意見を出し合い、お互いの考えを深め合おうとするようとする態度が育ってきた。

(課題)

- ・児童が夢中になる課題や教材を設定することに努めてきたが、十分であるとはいえなかった。教師がよいと思っても、児童があまり興味を示さないこともあった。さらに工夫をしていくとともに、教員間で教材の共有を図りたい。
- ・発表や話し合い活動では、相手意識がまだまだ低い。何のために話し合うのか、ポイントを提示するなどして、自分の考えを相手により上手に伝えることを意識させたい。また、聞く側の児童もさらにリアクションをとったり、話し手の意見を受けて自分の考えを述べたりして話ができるようにしたい。
- ・読書を通して語彙力や、表現力につながる感受性をさらに身に付けさせたい。家読など家庭における読書活動をさらに啓発し、充実した内容にしていきたい。